

タイトル:平成 29(2017)年度 教育セミナー(第 13 回)

日時:2017 年 9 月 14 日(木)~17 日(日)

場所:東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 3 階大会議室(303)

「トルコ共和国の朝鮮戦争派兵とその国内要因」

本岡 篤也 (東京外国語大学大学院)

私が中東☆イスラーム教育セミナーに参加したのは今回で 2 回目です。昨年度参加させて頂いたときはイスラーム研究の雰囲気をつかむことと研究上の知己を得ることを目的としていました。そのためあまり深く考えずに参加したのですが、あまりの発表内容、議論レベルの高さに驚かされてばかりで気づけば 4 日経っていました。

怒涛の知性の奔流の中でセミナーは終わり、最後のセミナーの評価、改善点の提言をしている時、思わず言ってしまいました、次回は発表しますと。

そして今年度の募集があったときはその言葉を成就させるためすぐさま応募し発表が決まったのですが、それからおおよそ 2 か月後、応募した自分の勇気を責めていました。とにかく発表原稿は満足に出来ず、日にちは近づくばかりでした。欠席というのはあり得ないと自身を励まし、何とかまとめたものの当日は不安でした。最初の発表だったこともあり初日にして最高に緊張していましたが、始まる 5 分前に何とか到着してからはあっという間に終わり、休む間もなく、発表後の休憩中に先生方から本質を突いたお叱りの言葉を頂き、気が付いたら次のセミナーに入っていました。

その後は楽しく終えましたが、あの時の緊張だけは忘れられません。この緊張は研究者として発表して得られたものです。

自分で発表しなくても先生方の話を伺うことや、自分の研究を話して先生からアドバイスを貰うことは誰にも出来ますが、時間を割いて自分の研究を洗いざらい聞いて頂いたほうがはるかに的確で親身に聞いて頂けるものと痛感しました。

4 日間ありましたが、去年と違い長かったような気もします。それはセミナーの空気に慣れたということもあるでしょうが、自分が去年より深く物事を見れるようになったからかもしれません。みなさん和気あいあいとしており、まじめで誠実な方々です。発表の場でも、その後の休憩、飲み会の場でもプライベート交じりの助言を懸命にして頂き、研究者としてグッと骨太になった気がします。

さらに全国から来た様々な研究を志した仲間たち、あるいは遠くから来て頂いた広い研究をしている先生方と、広い範囲で交流が持てるのも素晴らしかったです。自分なら躊躇するような深さでもって研究している先生の来し方、研究への態度など学ぶべきことはいくらでもあります。また仲間も学部から参加している意欲のある学生含めて、みなおなじなんだと励みになります。それを確認するだけでも来る価値はあるかもしれません。

今覚えているのは、自分が質問した意図を正確に見抜いて、すぐく考えて質問したんだねと笑っていた同年代の仲間、あるいは、君の出してきた資料で語るにはここは飛躍しすぎだと思うよと教えて頂いた先生の言葉です。

ここまで言えばきっと次の世代の人たちは迷っていても参加してくれるだろうと思います。中東研究するつもりなら絶対、しなくとも是非参加してください。そうすれば人生の糧になる何かに会えるとセミナー発表者、参加者として保証します。